

2020年7月5日聖餐式説教

主イエスは弟子たちを伝道に遣わすため悪霊を追い出す権威をお授けになって出発させられました。主イエスが行くつもりでおられた町や村へ弟子たちを遣わし、神の国を広く宣べ伝えるためでした。弟子たちが出かけていった先で多くの人が、天国の存在を知り、その力に触れることになったのです。

さて、弟子たちが出かけていき、一人になった主イエスをファリサイ派の人たちが囲みました。彼らは決して怠け者や勉強を怠った人達ではありませんでしたが、律法は本来、主なる神と人間が正しい関係を保つために、主なる神より与えられたわけでしたが、彼らはそれを正しく捉えようとせず、自分たちが人々からよい評価を受けるため、自分たちが尊敬を受けるために全てを行っておりましたので主イエスから批判されるだけでした。

彼らはそこで悔い改めればよかったのですが、そうするどころか逆に反発を強めてしまいました。こうした悪い思いを抱いた彼らは、かなり早い時期より主イエスをなんとかして殺そうと考えていたと聖書に記されています。そして彼らはやがてとうとう群衆を扇動し、主イエスを十字架に追いやってしまうのです。

主イエスはファリサイ派の人達が知的な誇りを人々に見せつけ、主なる神への信仰が人々から奪い去られようとしていることを非難されたのでした。主イエスが、「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました」と言われたのは、もちろん無知でよいということではなく、謙虚さと信仰が主イエスを受け入れることを可能にするということだったのです。ファリサイ派の人々に象徴されるように、おごり高ぶりを捨て、信仰と謙虚さをまず持つことが教えられているのです。

私達は主なる神の御心を知るために、学び・出会い・信仰生活が不可欠ですが、時として知的誇りにおりいりがちであったり、謙虚さを失いがちであったりします。主は私達に幼子のようになりなさいと謙虚さを示されたのです。

さて、先ほど読まれました福音書の言葉は私達に大きな慰めを与えます。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよ

う。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。主イエスは私達それぞれが持っている重荷をすべて御存知であり、苦しんでいる私達に対して招きの言葉を与えられたのです。私のもとに来なさいとは招きの言葉であるのです。そして出てまいりました軛は、服従を意味します。私達の世界には様々な軛があります。しかし主は「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われました。主は私達の存在全てを知っておられるのです。それは私達に合った私達にふさわしいの軛であると言う事なのです。主は私達に軛をもって従って来ることを教えられ、招きの手段とされたのでした。

最後に言われた「わたしの荷は軽い」も重要です。これは単に軽くて運びやすいという意味ではありません。主の教えは苦難からの逃避ではないです。また、負わなくてもよいとも主イエスは言われませんでした。

それは主なる神によって与えられる荷は、愛によって負わされたものであり、愛をもって担うべきものであるということです。私達を救おうとされる主は、単に私達に喜びを与えるのではなく、服従をもって招かれ、荷を与えられます。主は私達自身を全て、至らないところも悪い部分も、すべてを御存知である上で荷を与えるというのです、それは愛の荷であり、あなたがたも愛をもって担いなさいということなのです。

誰も重荷を負うことを喜びたくはないでしょう。主は私たち自身よりも、私たち自身についてご存知でおられます。

私達にはそれが大きく担えないと思えても、主が常についておられ、強く導いてくださることを信じて従って来なさいと教えられたのです。それは私達が主のみ心にかなうものになるため、主の御栄えを現すためであるのです。